



私の保育スケッチ

「子どもの言葉は最高！」



澄んだ青空に、ヒガンバナやコスモスが映える季節になりました。

「コアライルスは風邪ひくんだよ。」と、笑顔で言われると、かわいすぎて笑っちゃうしかありません。皆さんも、子どもの言葉がかわいらしすぎて、「そのままでもいいよ。」と、思う時はありませんか。

私は、何気ない遊びの中での、子どもが発する言葉を大事にしています。子どもの言葉を聞くと、「子どもの言葉は、本当に素晴らしい。魔法のようだ。子どもは天才だ。」と、つぶやいてしまいます。

ある日、草むらに何かを見付けている3人の年中さん。「何してるの？」と聞くと、「この辺で、リーン、リーンって鳴いているんだよ。」と、耳を澄まして聞いていました。私も耳を近づけてみると、本当に小さく虫が鳴いていました。子どもたちは、「きのうもここで鳴いてたんだよね。」と、クローバーをかき分けては虫を探しています。そのうち、虫はいなくなってしまった様子。私が、「何の虫かな？」と言うと、「分からない。」と次の虫探しに行きました。大人は、とかく答えを求めてしまうことに反省。子どもの感性や原体験を大事にしないと、と思いました。

今度は、藤棚の木の下で、人だかりの年長さん。「どうしたの？」と見ると、「いもむしがいた。」と凝視。持ちたいけど持てない様子。「いもむしは、ちょうちょになるんだよ。」「違うよ、蛾になるんだよ。」「違うよ、ヘビだよ。」「えっ、ヘビは卵だよ。」と、いろいろな意見。女の子が葉っぱに包み、そっと木の根元に置きました。私は、「成虫は何か、楽しみに見守ってね。」と、心の中でつぶやいた場面でした。

次の日、ゲンペイモモの木にある蜜のかたまりを見ていた男の子が、「これは、蟻の蜜なんだよ。」と教えてくれました。私が「木にキラキラした道があるね。」というと、「蟻は、天才だ！」と男の子。私は言葉が出ませんでした。

今夜はお月見。「十五夜ってなあに？」と聞くと、「お団子食べる日」「お月様が笑ってる日」などとかわいい言葉が返ってきました。次の日、「お月様見た？」と聞くと、「うん、外に出て見たよ。」「お月様の中にうさぎがいた。」「白いお団子の一番上は黄色だったよ。」と。家族でお月見をしたのでしょ。こんな日常の行事も大事にしていきたいと思いました。

コロナ禍の今、保育者は、子どもたちから元気をもらっているのかもしれませんが。だからこそ、日常の何気ない子どもの言葉を受け止め、やさしい気持ちで過ごせるよう援助していきたいと思います。

【認定こども園勤務】

